

平成 17 年度事業概況

平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

平成 17 年 5 月 31 日、アクチュアリー会大会議室にて会員総会を開催し、

- 第 1 号 平成 16 年度事業概況に関する件
- 第 2 号 平成 17 年度事業計画（案）承認の件
- 第 3 号 平成 16 年度決算承認の件
- 第 4 号 平成 17 年度予算（案）承認の件
- 第 5 号 会費分担に関する件
- 第 6 号 役員選任に関する件

を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、賛助会員については入会 1 社、退会 5 社、個人会員については入会 184 名、退会 133 名（うち死亡 2 名）があり、平成 18 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

入会賛助会員

ハノーバー・リー・サービス株式会社
以上 1 法人

退会賛助会員

明治損害保険株式会社
アクサグループライフ生命保険株式会社
UFJ 信託銀行株式会社
株式会社システム情報
株式会社 UFJ 銀行

以上 5 法人

名誉会員	9 名
正会員	1,142
準会員	764
研究会員	1,675
小計	3,590
賛助会員	105
合計	3,695

3. 事業概況

〔試験関係〕

(1) 平成 17 年度資格試験の実施

平成 17 年 12 月 26 日、27 日、28 日の 3 日間、東京（早稲田大学理工学部）、大阪（天満研修センター）、中国の北京（对外経済貿易大学）および成都（西南財経大学）の 4 都市で実施し、平成 18 年 2 月 16 日に合格者を決定した。受験科目総数は 3,380、うち合格科目数は 483、全科目合格者は 53 名であった。なお、中国における申込科目総数は 30、うち受験科目総数は 24、合格科目数は 1 であったが、1 名が第 1 次試験全科目に合格し、準会員資格を得た。

なお、平成 17 年 12 月に、平成 16 年度資格試験の科目「数学」について、一部問題に誤りがあることが判明し、該当問題を適正に採点した結果、1 名の追加合格者が出ることとなった。その結果、平成 16 年度資格試験については、受験科目総数は 3,415 中、合格科目数は 429 となった。

(2) 試験教育制度の改正について

数学の内容に「モデリング」を導入した資格試験の実施を開始した。

これに対応して、アクチュアリー講座とは別に、モデリング講座を平成 17 年 10 月 17 日から 11 月 28 日の期間の全 6 回実施した。受講者数は 124 名であった。

〔教育・研修・研究発表関係〕

(1) 平成 17 年度アクチュアリー講座を実施

会員の教育制度として、東京においてアクチュアリー講座を実施した。アクチュアリー講座は平成 17 年 5 月 10 日から 11 月 22 日の期間で実施し、基礎講座 10 科目、特論講座 7 科目が開講され、受講者数は基礎講座 130 名、特論講座 27 名であった。

(2) 平成 17 年度アクチュアリー追加演習講座を実施

会員の教育制度として、東京においてアクチュアリー追加演習講座を実施した。アクチュアリー追加演習講座は、入社 2～3 年目以降の受験者向けで、演習を中心とした実践的なアクチュアリー知識を習得することを目的とした講座である。平成 17 年 9 月 7 日から 11 月 29 日の期間で生保数理演習、損保数理演習および年金数理演習の 3 科目を実施し、受講者数は生保数理演習 54 名、損保数理演習 46 名、年金数理演習 75 名であった。

(3) 平成 17 年度年次大会・IT 研究大会の開催

年次大会は、平成 17 年 10 月 26 日、27 日の 2 日間、経団連会館、大手町サンケイプラザにおいて、IT 研究大会は 10 月 25 日、26 日の 2 日間、経団連会館、大手町三井生命ビルにおいて開催した。

年次大会初日における特別講演は、午前の部において「M&A 新時代における企業価値向上」のテーマで一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授 GCA(株)代表取締役パートナー 佐山 展生氏により、午後の部において「法の大変動と保険法の課題」のテーマで東京大学大学院法学政治学研究科教授 山下 友信氏と、「保険監督の国際的潮流」のテーマで金融庁総務企画局総務課企画官（国際室保険担当）天谷 知子氏によりそれぞれ行われた。

また、IT 研究大会の特別講演は「ユビキタスネット社会の実現に向けた政策：e から u への進化」のテーマで総務省事業政策課市場評価企画官 今川 拓郎氏によって行われた。

(4) 例会の開催

第 1 回例会 平成 17 年 4 月 5 日 (於:こまばエミナース)

「ドイツの年金用の新生命表 DAV 2004R」 Ulrich Pasdika 氏 (Gen Re)

第 2 回例会 平成 17 年 8 月 31 日 (於:こまばエミナース)

「米国 RBC 基準における CTE アプローチの採択について」

Thomas A. Campbell 氏 (米ハトフォード生命)

James W. Lamson 氏 (Actuarial Resources Corporation)

第 3 回例会 平成 17 年 11 月 25 日 (於:富国生命ビル 28 階大会議室)

「企業年金の受給権保護 - 法的観点から、最近の裁判例も素材に - 」

森戸 英幸 氏 (成蹊大学法科大学院)

第 4 回例会 平成 17 年 11 月 29 日 (於:損保会館)

「医療保険査定の数理的アプローチ」

Jürgen Weyer 氏 (ケルン大学)

(5) 研修例会の開催

第 1 回研修例会 平成 17 年 10 月 7 日 (於:こまばエミナース)

「保険会社のための ERM (Enterprise Risk Management for Insurance Companies)」

Shaun S. Wang 氏 (ジョージア州立大学)

第 2 回研修例会 平成 17 年 10 月 13 日 (於:ホテルフロラシオン青山)

「死亡率と疾病率に影響を与える医学の進歩」 Dr. Philip Smalley (RGA インターナショナル)

第 3 回研修例会 平成 18 年 3 月 16 日 (於:こまばエミナース)

「EU ソルベンシー 2 の動向について」

河野 年洋 君 (RGA)

(6) セミナーの開催

正会員および準会員を対象に下記の 4 テーマについて相互研鑽を目的に 11 月よりムーンライトセミナーを実施した。

保険会社の ERM について

逆井 幹則 君 (テイリング・ハスト/ターズ・ペリ)

資本コストの考え方について - 損害保険会社をモデルとして -

セミナー部会委員

ファイナンスの世界から見た保険ビジネス

土井 和行 君 (東京海上日動)

小島 茂 君 (東京海上日動フィナンシャル生命)

数理ファイナンスの基礎

セミナー部会委員

(7) プロフェッショナリズム研修の実施

平成 18 年 2 月 24 日、損保会館において、正会員（今年度の資格試験で全科目に合格した準会員を含む）および準会員（今年度の資格試験で基礎科目すべてに合格した研究会員を含む）を対象に下記の研修内容で実施した。今年度の受講修了者は正会員 38 名、準会員 41 名であった。なお、本年度よりプロフェッショナリズム研修の受講が正会員資格の取得要件となった。

IAA シラバスとプロフェッショナリズム	大山 義広 君（三井アセット信託）
アクチュアリーと行動規範について	小林 修 君（明治安田生命）
生保のプロフェッショナリズム	猪ノ口 勝徳 君（日本生命）
損保のプロフェッショナリズム	若林 健一 君（日本興亜損害）
年金のプロフェッショナリズム	長澤 亮之 君（住友信託）
	上原 尚 君（住友生命）

(8) 研究会活動

現在以下の 10 の研究会で活発な研究を行っている。各研究会の活動状況等について、当会ホームページに掲載するとともに、研究成果としてまとめたものについては、会報別冊等を通じて公表した。

外国文献研究会	生保計理に関する基本問題研究会
ASTIN 関連研究会	巨大リスク研究会
年金基礎研究会	年金理論研究会
医療保険研究会	AFIR 関連研究会
デリバティブ研究会	ALM 研究会

〔委員会・部会活動〕

(1) 実務基準の整備・充実

イ．「生命保険会社の保険計理人の実務基準」については、最低保証のある変額年金保険等の将来収支分析における対応のため、平成 18 年 3 月に所要の改定を行なった。

ロ．損害保険会社または外国損害保険会社等の保険計理人に係る実務基準の作成および関連事項の調査研究を行うことを目的に実務基準部会（損保）を設置し、平成 17 年 12 月に損保計理人の役割の拡充についての検討結果をとりまとめ報告書を金融庁に提出した。引き続き、実務基準の検討を行っている。

ハ．農林水産省より作成依頼された「共済計理人の実務基準」につき、共済計理人の実務基準検討委員会において検討の上、平成 17 年 4 月に「全国共済農業協同組合連合会の共済計理人の実務基準」を制定した。

ニ．保険業法に定める指定法人として金融庁より委託を受けて策定する保険計理人の実務基準に関し、制定手続きの透明性の一層の向上を図ること等を目的として、広く一般から意見募集をすることも含めた、実務基準の制定手続きを定める規則（案）を作成し、その仮運行を開始した。これに基づき、平成 18 年 3 月に「生命保険会社の保険計理人の実務基準」の改正案を公開し、意見募集を実施した。

(2) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準および保険監督の国際基準についてはそれぞれ IASB(国際会計基準審議会)ならびに IAIS(保険監督者国際機構)において精力的な検討がなされ、それぞれの機関会員である IAA(国際アクチュアリー会)では、アクチュアリー専門職団体として保険契約の国際会計基準(IFRS4)に対応する国際アクチュアリー実務基準の作成を行う等の活動を行っている。IAA 正会員メンバーである当会においても、生保委員会、損保委員会の関連の部会にて検討を進めるとともに、IAA の委員会活動に積極的に参画している。

(3) 標準死亡率諮問委員会の開催

平成 17 年 11 月 1 日に開催された第 11 回標準死亡率諮問委員会において、「生保標準生命表 1996(死亡保険用)」については、平成 18 年度においては継続適用すること、および平成 19 年度以降については改定するとした場合の具体的な方向性について、今日的な死亡率のあり方を含め検討に着手すること、また、「生保標準生命表 1996(年金開始後用)」については、昨今の環境変化等にも留意しつつ、改定を視野に入れた検討を継続的に進めていくこと、および平成 18 年度は継続適用することが了承された。

(4) 情報提供機能の充実

- イ. 各委員会・部会の活動状況等について当会のホームページに情報を掲載した。
- ロ. 諸外国のアクチュアリー会の刊行物に掲載されている記事の一部について、その概要の紹介を当会のホームページにおいて行った。

〔意見表明〕

- (1) 平成 17 年 7 月 14 日、金融庁に対し、「保険会社向けの総合的な監督指針」(案)に対し意見を提出した。
- (2) 平成 17 年 9 月 22 日、金融庁に対し、「少額短期保険業に関する保険業法施行令・保険業法施行規則等の改正案の骨子」(案)に対し意見を提出した。
- (3) 平成 18 年 3 月 31 日、IAA に対し、「保険契約の国際会計基準[IFRS4]に対応した IAA 実務基準の第 3 回予備公開草案」に対し、意見を提出した。

〔国際関係〕

(1) 第 34 回東アジア・アクチュアリー講座(ASEA)の実施

平成 17 年 7 月 25 日から 8 月 5 日までの 12 日間にわたり、東アジアの 8 地域から 27 名の参加を得て、保険数理に関する特定のテーマについての講座を実施した。

(2) EAAC 東京大会に向けた組織の新設

平成 19 年に開催する第 14 回東アジアアクチュアリー会議(EAAC)東京大会に向けた準備、対応を行うため、EAAC 組織委員会および EAAC 実行委員会を設置した。

(3) IAA 活動

本年度はローマ会議（平成 17 年 6 月 13 日～16 日）、リオデジャネイロ会議（平成 17 年 11 月 16 日～19 日）に委員を派遣した。

平成 17 年度末現在の当会の IAA 委員会等の委員は以下のとおりである。

Accreditation Committee	日笠 克巳 君
Education Committee	日笠 克巳 君
Nominations Committee	日笠 克巳 君
Insurance Regulation Committee	河野 年洋 君
Solvency Subcommittee	河野 年洋 君
Reinsurance Subcommittee	藤井 康秀 君
Insurance Accounting Committee	阿比野 裕 君
”	田口 茂 君
Subcommittee on Actuarial Standards	阿比野 裕 君
”	田口 茂 君
Advice and Assistance Committee	村田 富生 君
China Subcommittee	村田 富生 君
Professionalism Committee	吉村 雅明 君
Task Force on Strategic Planning	吉村 雅明 君
ASTIN セクション	藤井 康秀 君
IACA セクション	吉田 英幸 君

(4) IAA 迅速処理適用案件

以下の案件について、IAA の迅速処理手続きが適用されたが、当会から反対等の意見は表明しなかった。

- イ．平成 17 年 4 月、IAIS「規制上の財務要件構築のためのコーナーストーン」に対する IAA 意見
- ロ．平成 17 年 4 月、「IASB 保険契約プロジェクトフェーズ で生ずる論点への IAIS 意見」に対する IAA 意見
- ハ．平成 17 年 4 月、国際監査・保証基準審議会（IAASB）「ISA540 会計上の見積りと関連する開示の監査」に対する IAA 意見
- ニ．平成 17 年 4 月、IAASB「ISA320 虚偽表示の識別と評価における重要性」に対する IAA 意見
- ホ．平成 17 年 6 月、IAIS「保険者の適格性要件と評価に関する監督基準（案）」に対する IAA 意見
- ヘ．平成 17 年 7 月、IASB「会計基準設定主体の役割と IASB との関係に関する覚書（案）」に対する IAA 意見
- ト．平成 17 年 7 月、国際会計基準委員会財団（IASCF）「IFRIC - 運営見直し“協議文書”」に対する IAA 意見
- チ．平成 17 年 7 月、IASCF「IASB のデュープロセス“協議取決めのハンドブック（案）”」に対する IAA 意見
- リ．平成 17 年 8 月、IAIS「適切な資本の形態に関する監督基準（案）」に対する IAA 意見

- ヌ . 平成 17 年 8 月、IAIS「ファイナイト再保険に関するガイダンス文書(案)」に対する IAA 意見
- ル . 平成 17 年 10 月、IASB「IAS37 引当金、偶発負債および偶発資産」(「非金融負債」と改題される予定)と「IAS19 従業員給付」の改訂に対する IAA 意見
- ヲ . 平成 17 年 10 月、IASB「IFRS3 企業結合」と「IAS27 連結および分離財務諸表」の改訂に対する IAA 意見
- ワ . 平成 17 年 11 月、IAIS「保険会社のソルベンシー評価に向けた共通構造と共通基準に関するロードマップ(案)」に対する IAA 意見

(5) 海外アクチュアリー会との相互認定

平成 17 年 12 月、豪州アクチュアリー会(Institute of Actuaries of Australia)と Affiliate Membership の協定書を締結した。

(6) 国際交流関係

来日した各国アクチュアリーと交流を図ったほか、次のとおり会議等に代表を派遣した(前述の会議についても再掲)。

平成 17 年 4 月 12 日～14 日 IAA 保険会計委員会/実務基準小委員会(於:イギリス ロンドン)
飯島 博幸 君、田口 茂 君

平成 17 年 6 月 13 日～16 日 IAA 会議(於:イタリア ローマ)
日笠 克巳 君、吉田 英幸 君、阿比野 裕 君、河野 年洋 君、
田口 茂 君、重原 正明 君、吉村 雅明 君、村田 富生 君

平成 17 年 6 月 17 日、18 日
スイスアクチュアリー会 100 周年記念大会(於:スイス バーゼル)
日笠 克巳 君、村田 富生 君

平成 17 年 9 月 4 日～7 日 第 36 回 ASTIN 会議(於:スイス チューリッヒ)
美添 泰人 氏(青山学院大学)

平成 17 年 9 月 6 日～9 日 第 15 回 AFIR 会議(於:スイス チューリッヒ)
山下 実若 君

平成 17 年 9 月 12 日～15 日 第 13 回 EAAC 会議(於:インドネシア バリ)
日笠 克巳 君、多島 和夫 君、吉田 英幸 君、安宅 大介 君、
穴澤 禎一 君、池本 敦 君、河原 誠 君、・見 保輝 君、
土井 和行 君、三好 茂貴 君、村田 富生 君

平成 17 年 9 月 30 日
IAA Risk Margin ワーキング・パーティのミーティング(於:イギリス ロンドン)
重原 正明 君

平成 17 年 11 月 13 日～16 日 SOA 年次大会(於:アメリカ ニューヨーク)
村山 良樹 君

平成 17 年 11 月 13 日～16 日 CAS 年次大会(於:アメリカ ボルティモア)
田口 茂 君

平成 17 年 11 月 16 日～19 日 IAA 会議(於:ブラジル リオデジャネイロ)

日笠 克巳 君、吉田 英幸 君、阿比野 裕 君、河野 年洋 君、
田口 茂 君、飯島 博幸 君、吉村 雅明 君、村田 富生 君

平成 18 年 1 月 11 日

IAA Risk Margin ワーキング・パーティのミーティング（於：イギリス ロンドン）

重原 正明 君

平成 18 年 3 月 10 日、11 日

インドアクチュアリー会第 8 回 Global Conference of Actuaries（於：インド ムンバイ）

日笠 克巳 君、土井 和行 君、村田 富生 君

平成 18 年 3 月 13 日、14 日

IAA Risk Margin ワーキング・パーティのミーティング（於：フランス パリ）

重原 正明 君

〔評議員会〕

(1) 平成 17 年度評議員会の開催

平成 18 年 3 月 6 日、経団連会館にて開催した。平成 17 年度の事業概況および平成 18 年度の事業計画について審議した。

〔大学、関係官庁・団体〕

(1) 京都大学より保険数学の講師派遣の依頼があり、辻 芳彦 君（大同生命）、南 嘉博 君（日本生命）、湯浅 味代士 君（住友生命）を派遣した。

(2) 大阪大学より関西支部へ保険数学の講師派遣の依頼があり、青井 知幸 君（日本生命）、金澤 巖 君（大同生命）、湯浅 味代士 君（住友生命）を派遣した。

(3) 立命館大学よりアクチュアリープログラムの中の年金数理の講師派遣の依頼があり、稲田 忠昭 君（りそな信託）、佐々木 国夫 君（個人）、吉澤 博 君（個人）を派遣した。

(4) 日本大学の依頼に基づく当会の推薦により、本多 正憲 君（野村総研）が損害保険数理の講義を、松山 直樹 君（明治安田生命）が生保数理実務論 の講義を行った。

(5) 平成 17 年 9 月 12 日～15 日、広島市 広島プリンスホテルにおいて開催された統計関連学会連合大会の 9 月 13 日～15 日の企画セッション「保険とファイナンスにおける統計的リスク管理問題」へ、当会派遣により、坂本 純一 君（野村総研）、渡邊 重男 君（ニッセイ同和損害）が参加した。

(6) 日本統計学会統計教育委員会委員長より統計教育に関しての文部科学省への要望書提出への賛同要請を受けて、平成 17 年 6 月に理事長名で賛同を行なうこととした。

(7) 平成 18 年 7 月 30 日～8 月 2 日に開催される APRIA 東京大会の組織委員会に日笠 克巳 君（三井生命）、米谷 悟 君（三井住友海上）が委員として参画している。

〔表彰関係〕

(1) 平成 16 年度資格試験成績優秀者の表彰

イ．理事長特別賞・理事長賞の授与

平成 17 年 5 月 31 日に岩佐 克弘 君（三井アセット信託）に理事長特別賞を、福永 顕人 君（アイティ・スター生命）に理事長賞を授与した。

ロ．科目別成績優秀賞の授与

同日、次の 2 名を表彰した。

三谷 和弘 君	（個人）	数学
畑 加寿也 君	（ミラソ）	損保数理

(2) 優秀論文の表彰

平成 17 年 10 月 26 日、年次大会において次のとおり表彰した。

イ．優秀論文の表彰 2 編

「『契約者の合理的期待(PRE)』の『契約者の公平な取り扱い(TPF)』への変貌」

山本 祥司 君（第一生命経済研究所）

「営業職員チャネルの収益検証に関する一考察」 前林 義明 君（明治安田生命）

ロ．IT 関係優秀論文の表彰 2 編

「保険会社の IT 投資コスト・効果分析」

IT 研究会第 4 グループ

「保険業界における IT スキル標準」

IT 研究会第 5 グループ

〔広報・出版活動〕

(1) 広報活動

イ．広報誌「アクチュアリー」の改訂および配布

ロ．「アクチュアリーセミナー」の実施

主に学生を対象としたセミナーを、平成 17 年 11 月 26 日に東京（アクチュアリー大会会議室）で、12 月 3 日には大阪（住友生命 釣鐘倶楽部）で開催した。各々の参加者は 64 名および 31 名であった。

(2) 会報等の刊行

次のとおり会報をはじめ各種の刊行物を発行した。

イ．会 報 第 58 号

ロ．会報別冊 第 221 号 平成 16 年度資格試験問題集

第 222 号 第 1 回アクチュアリー海外研修報告

第 223 号 エクイタブル生命に関する調査報告書（ペンローズ報告書）

第 224 号 最低年金額保証オプション付保険の責任準備金、プライシングおよびヘッジ方法

第 225 号 第 45 回 IT 研究大会報告

第 226 号 公正価値評価の世界におけるリスク管理

ハ．アクチュアリージャーナル 第 56 号～第 59 号

ニ．関西支部研究会記録 第 41 号

〔図書関係〕

(1) 図書の充実

引き続き、図書室の図書の充実を図った。平成 17 年度中の図書の増加状況は次のとおり。

洋書 17 冊 和書 95 冊 計 112 冊

〔関西支部〕

(1) 支部総会

平成 17 年 5 月 27 日、りそな銀行本店にて支部総会を開催し、

第 1 号 平成 16 年度事業概況に関する件

第 2 号 平成 16 年度決算および平成 17 年度予算（案）承認の件

第 3 号 平成 17 年度事業計画（案）承認の件

を諮り、原案どおり承認された。

(2) 関西支部例会の開催

平成 17 年 12 月 2 日（於：大同生命）

「日本アクチュアリー会を巡る内外の動向」

日笠 克巳 君（三井生命）、村田 富生 君（三井生命）

平成 18 年 1 月 20 日（於：アプロースタワー）

「年金制度を巡る諸問題」

坂本 純一 君（野村総研）

(3) 関西支部研究会活動

次の 5 分科会において研究調査活動を行った。

保険計理分科会	委員長	辻 芳彦 君（大同生命）
年金分科会	〃	浅野 勝美 君（りそな信託）
海外年金研究会	〃	赤松 伸 君（日本生命）
システム分科会	〃	金田 昇 君（ニッセイ同和損害）
アクチュアリーセミナー	〃	中村 吉男 君（住友生命）

(4) 関西支部アクチュアリー講座の実施

関西支部においてアクチュアリー講座を実施した。受講者数および講師は次のとおりであった。

		受講者数	講 師
前期（9～10月）	生保数理	8 名	辻 芳彦 君（大同生命）
後期（10～12月）	生保数理	8 名	辻 芳彦 君（大同生命）